



2019  
ふくしまっ子チャレンジスクール実行委員会

ふくしまっ子

# チャレンジサマースクール 報告書

## 2019 in 石川

令和元年 8月10日土~16日金

6泊7日



主催 ふくしまっ子チャレンジスクール実行委員会  
後援 福島県教育委員会 石川県教育委員会 金沢市教育委員会  
宿泊場所 石川県立能登少年自然の家  
金沢湯涌創作の森



# 『ふくしまっ子チャレンジサマースクール 2019 in 石川』を終えて

ふくしまっ子チャレンジスクール実行委員会

代表 岩井 繁 樹

今年も多くの笑顔、汗、涙、そして感動を与えてくれた『ふくしまっ子チャレンジサマースクール』が終了いたしました。多くの方々を支えていただき、8年目のキャンプを無事終えることが出来て、限りない喜びと感謝に堪えません。ほんとうにありがとうございました。

## あらためて保養キャンプの意義を考える。

2011年の福島第1原発事故以来、福島県を離れ移住を続けるいわゆる自主避難者は現在、全国に3万人以上いらっしゃいます。ピーク時の4分の1ぐらいまで減少しているとはいえ、これは行政が把握している方だけなので、実際にはもっと多いと思われます。

これだけ多くの方がふるさと福島を離れ、今も日本のどこかで不慣れな生活を送られていることに胸が痛みます。一方、福島で生活されているの方々の中には、移住を最初からあきらめておられる方だけでなく、安全だから離れる必要などないと思われる方が圧倒的に多いことは承知のことです。しかし、原発事故による経済的困窮や、心身の不安を大なり小なり抱えて暮らしておられる方々のことを私たちは忘れてはなりません。

汚染残土の処理問題、放射性物質による健康被害、住居問題、などなど人災である原発事故によって引き起こされた被害は今も甚大です。

石川県に住むわれわれも、志賀原発が事故を起せば同じ状況になっていたかもしれません。現に1999年に臨界事故が起きていたのですから、他人事とは思えません。

事故当初は、放射能からの退避が主目的で、全国で活発に行なわれた保養活動も、近年は活動資金の枯渇やスタッフ集めの困窮、さらには保養活動そのものの不用論の台頭などで、保養事業を継続実施する団体数の減少は否めません。

ここ石川県でも、私が把握するかがり、団体数は私どもを含め5団体になっています。

そんな中、我が実行委員会のスタッフには「もやもや、が時の経過と共に襲ってきます。

「なんのための保養キャンプなの?」「そもそも保養ってなに?」「ふくしまの人達はほんとうに望んでいるの?」「子ども達に何を伝えたいの?」

## 子ども、ヤングリーダー、大人スタッフ、それぞれの成長

ふくしまっ子チャレンジスクールのコアスタッフの共有スローガンは『無理せず、楽しく、かっこよく』です。「無理せず」や、「かっこよく」はスタッフの高齢化?とともにだんだんと危なくなっていますが、「楽しく」だけは死守しなくてははいけません(笑)。

今年も期間中には様々なドラマがあり、アクシデントも、サプライズも、感動もありました。参加してくれた子ども達はもちろん、ヤングリーダーも大人スタッフもかけがえのない夏の思い出を、それぞれ自ら演出し、楽しんでくれたことと思います。

「打ち上げ&振り返り会」で涙するヤングリーダーに胸が熱くなり、私の目頭はすぐに潤んでしまいました。

子ども達の成長ぶりも頼もしいのですが、ヤングリーダーがこのキャンプを通じて自分自身を見つめ、こころの内面を探求する姿に大いに学ばせてもらいました。

今でもこのキャンプの最大の目的は、ふくしまっ子の放射能からの退避による心身のリフレッシュなのですが、副産物とも言える子ども達、若者達のこころの鍛錬、修養に大いに貢献していることに限りない喜びと、誇りと、充実を感じています。

## キャンセル待ちが20名以上も

今年の3月に待望の公式ホームページが立ち上がりました。さらに今年は4年ぶりに受け入れ全国協議会が主催する『保養相談会』(いわき市・二本松市にて開催)に参加しました。お陰で今年の子どもの参加者のうち10名が初参加で、20名のリピーターを合わせて30名の定員で実施できました。

事務局には20名以上のキャンセル待ちがあったと聞いています。その子達にはほんとうに申し訳ない気持ちで一杯です。しかし、このことはまだまだ保養キャンプの需要が多いことを証明してもらっています。今も福島の親御さん、特にお母様方の中には、わが子の心身の被害を心底案じておられる方々は少なくありません。

保養キャンプが必要だと、一人でも声を上げる方がいればこの事業を続けます。

来年もきっと「もやもや」を抱えながら老体に鞭打って?ふくしまっ子を迎えることをお約束して、お礼のことばとさせていただきます。



## 保養キャンプとは

原発事故により放射能の影響と不安がある地域に暮らす人々（特に放射能の影響を受けやすい子ども達）が休日などを利用して、他地域に滞在することで放射能の影響や不安から一時的に離れ、体調を整え、心身の疲れを癒すことを目的として企画運営されるものです。

チェルノブイリ原発事故後ウクライナやベラルーシなどでは国家が主導して、学校の授業の一環として保養キャンプが実施され、期間は1か月を超えるのが普通です。30年以上経った現在も実施されその効果も実証されています。

わが国では現在でも全国で200以上の団体が毎年夏・冬・春休みなどを利用して保養キャンプを実施しています。運営はボランティアが主で、資金面は寄付金・補助金で成り立っているのが現状です。

## 事業報告

1. 事業名 ふくしまっ子チャレンジサマースクール2019 in 石川
2. 実施主体 ふくしまっ子チャレンジスクール実行委員会
3. 実施期間 令和元年8月10日(土)～8月16日(金) 6泊7日
4. 宿泊場所 石川県立能登少年自然の家 石川県鳳珠郡能登町字九里川尻16字20番地（10日～14日）  
金沢湯涌創作の森 石川県金沢市北袋町エ36番地（14日～16日）
5. 参加者 福島県の小学2年生～中学3年生／29名 石川県の小学生1名
6. 事業内容

### 《主なスケジュール》

	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	宿泊先											
8/10(土)	郡山市9:00出発 → 昼食(新潟のSAで) → 随時休憩 → 能登到着18:00												ウェルカム夕食	開校式 オリエンテーション 班活動	入浴														能登少年自然の家
8/11(日)				海水浴 能登の海を満喫				海水浴 五色ヶ浜	スイカ 割り	入浴	フリー タイム	夕食	CLUB NIGHT	班活動				夜の 就寝 準備 就寝											
8/12(月)		掃除	フリータイム	朝食	カヌー			お昼寝 タイム	フリー タイム	キャンピングキャンプ (テント張り&野外炊飯)																			
8/13(火)	起床・洗面	ラジオ体操・朝のつどい			キャンピングキャンプ	昼食		フリータイム						キャンプ ファイヤー															
8/14(水)		朝のつどい		能登 → 能美 → 金沢 甲状腺検査 (よしだ小児科クリニック)				江戸村湯けむり脱出ウォーク				入浴	夕食	きもだめし															
8/15(木)		掃除	朝食	自然と遊ぼう			お昼寝 タイム	工房体験 藍染め・織りもの・版画 スクリーン版画						ファイナル コンサート					金沢湯涌創作の森										
8/16(金)		朝食	閉校式	金沢9:00出発 → 昼食(新潟のSAで) → 随時休憩 → 郡山到着16:00																									

## キャンプ継続に必要な事って何？

今年のふくしまっ子チャレンジサマースクール終了後、「今年も素晴らしいキャンプだった!」の声とともに「これまでのキャンプと少し雰囲気は違っていたかも?」という声も聞かれました。

そこで、ふくしまっ子チャレンジスクールの開催初期から熱い気持ちで関わっているメンバーと交わした話の中で、新たな課題について出てきた意見のいくつかを紹介します。

### ☆(匿名)

保養キャンプを開催して8年目を迎え、今年初めてスタッフとの間で、「原発事故の影響を懸念して、このキャンプに参加させている保護者の方はどれくらいいるのだろうか?」という話が出ました。

「夏休みに子どもを預ける場所として、親の都合だけで参加させている保護者の方もいるのではないかと?」そんなことを思わせるような子どもの言動が見受けられたからでした。

ふくしまっ子のスタッフは、原発事故の影響がどれほどなのかを知るために、現地に赴いたり、情報収集や勉強会に参加したりを積み上げてきました。そして、放射能が子どもに及ぼす健康被害を懸念する保護者の方々の不安や思いを汲んで来たからこそ、毎年夏の1週間、何とかスケジュールを空け、そのための準備にも汗を流してボランティアを続けてきました。

これからも福島県やその周辺地域でお子さんの健康を願う保護者の方々に寄り添い、できるだけ長くこの保養キャンプを継続していきたいと思っています。

今年は20名以上の参加希望者をお断りせざるを得なくなりましたが、そのお断りした中に原発事故からの影響をこころの底から懸念して参加させたいと望んでいる保護者もおられたのではないかと? そうであれば、『来年はそういった方々のお子さんを優先させて参加させたい! そのためにどうすればいいのか? その手段を見つけたい。』というのが私の正直な気持ちです。

### ☆道花敬子

毎年長い1週間を子ども達と過ごしているのは、1年目のふくしまっ子を終えた直後耳にした、福島の高校生や母親たちの「私達を忘れないで、見捨てないで」…という叫びのような声が原点です。

その声が、日々の暮らしの中で突然すーっと浮かんで聞こえてくるときがあって、「忘れんといて」って言われているようで背筋が伸びる。ひとつずつのエネルギーの持ち寄りが問題を解いているような、解答を編み出しているような、そんな思いを共有し、考えていくことを継続していくには今後どんな取り組みが必要だろうか?

### ☆下村英司

今年、福島県内での放射線への関心度の差が、非常にあるのだとあらためて感じました。

今年のキャンプでは続けて参加してくれている子ども達の、年下の子や初参加の子たちへの接し方の変化に成長を感じたり、高校生になってヤングリーダーになって戻って来てくれた事など、嬉しい事もたくさんありました。

しかし、福島県内では、放射線の話はもはやタブーだとしたら、どうしたら、本当に保養キャンプを必要とされている方々に、参加して頂けるのだろうか。

そして、保養キャンプを続けていくにあたり必要な人員の確保・お金の問題等沢山の課題が山積しているという事が気になります。

まだまだ、たくさんの意見がでましたが、スタッフ間で気持ちを伝えあいながら、こうした課題に取り組んでいきます。楽しい! だけではすまない想いも関わって下さる皆様と共有できると嬉しいです。



8月  
10日  
1日目

出発式  
郡山駅前

迎え



開校式



8月  
**11**日  
2日目

海水浴  
五色ヶ浜



## ビーチフラッグス



## 音楽クラブ



## CLUB NIGHT

### 絵画クラブ



## 英会話クラブ



8月  
12月  
3日目

カヌー



キャンプインキャンプ





## キャンドルナイト



8月  
13 火  
4日目

キャンプイン  
キャンプ



フリータイム



キャンプ  
ファイヤー



8月  
14水  
5目



江戸村湯けむり脱出ウォーク



きもだめし



8月  
15日(木)  
6日目



自然と遊ぼう



工房体験  
工房体験  
藍染め・織りもの・版画  
スクリーン版画





## ファイナルコンサート



8月  
16日  
7日 金

閉校式





さよならじゃないよ!  
いってらっしゃーい!!



今年も新聞に活動を紹介して  
いただきました!

福島の小中学生  
野外活動で交流  
能登町でスクール  
東日本大震災や福島第1  
原発事故で被災した福島県  
の小中学生を石川に招いた  
「ふくしまっ子チャレンジ  
サマースクール」(本社は  
援)は12日、能登町の県能  
登少年自然の家でキャンプ

が行われ、29人が野外活動  
で交流を深めた。  
参加者はボランティアの  
大学生らに教わりながら  
テントを設営し、カレー  
ライスを調理して味わっ  
た。

サマースクールは震災翌  
年の2012年から毎年実  
施している。今年は10日か  
ら6泊7日の日程で、能登



テントを設営する子どもたち  
—能登町久里川尻

▲北國新聞(令和元年8月13日掲載)

ビーチフラッグで旗を奪い合う参加者ら=能登町新保で

夏休み中の福島県の子ども  
らに能登町や金沢市の自然を  
満喫してもらおう「ふくしまっ  
子チャレンジサマースク  
ール」が、十一六日の日程で  
開かれている。福島市や同県  
郡山市などの小学二年、中学  
三年生二十九人が参加し、キ  
ャンプやカヌー体験といった  
野外活動を楽しむ。

十一日は、同町新保の五色  
ヶ浜で、ボランティアの大学  
生ら十五人と海に入って遊ん  
だ。砂浜に立てた旗を奪い合  
う「ビーチフラッグ」では、  
児童らが笛を合図に旗に向か

夏休み中の福島県の子どもらに能登町や金沢市の自然を満喫してもらおう「ふくしまっ子チャレンジサマースクール」が、十一六日の日程で開かれている。福島市や同県郡山市などの小学二年、中学三年生二十九人が参加し、キャンプやカヌー体験といった野外活動を楽しむ。

十一日は、同町新保の五色ヶ浜で、ボランティアの大学生ら十五人と海に入って遊んだ。砂浜に立てた旗を奪い合う「ビーチフラッグ」では、児童らが笛を合図に旗に向か

つて走りだし「取った」とはしゃぎ声を上げていた。  
同県いわき市から来た小学  
五年生の鈴木亜涼里さん  
(〇)は「海は冷たくて気持  
ちよかったです。新しい友達も  
できて楽しい」と笑顔を見せ  
た。

サマースクールは、野々市  
市の岩井繁樹さん(会)が、東  
京電力福島第一原発事故をき  
っかけに「子どもたちに放射  
線の影響を気にせずに外で遊  
んでほしい」と、八年前から  
有志と毎年企画している。  
(加藤豊大)

能登でつくる夏の思い出

▲北陸中日新聞(令和元年8月15日掲載)

# エピソード



## 竹田有花梨

ベル

ミーティングなどの一つ一つの話し合いの積み重ねが、このチャレンジスクールの成功に繋がっているのだと実感した。



## 水谷将己

シャンクス

同じ班でない子があだ名で声をかけてくれて嬉しかった。ふくしまっ子の活動を広めたいと思った。



## 出口夏廉

かれん

3班のチームワークが最終日に向かうにつれて段々と一致団結していていると思った。



## 東 泉水

みっけ

『夢があるから』の時に最初話せてなかった子が一緒に踊ろうとしてくれたことが嬉しかった。

## 田村朋久

トート

ファイナルコンサート。原点回帰と思うような例年にも増して強く大きな一体感だった。



## 深代真一

しんちゃん

トマト嫌いな3班の男子たちがトマトを食べられるようになった。

## 米田千奈都

ちなつ

イベントの時、各班の協力する姿、頑張っている姿、男女混ざって真剣な顔で考える姿が見られてとても良かった。





### 澤本享宏

レイリー

ユウマは最初人見知りしている様子だったけど、3日目以降は自ら会話してくれて嬉しかった。コテツは去年よりしっかり者になっていた。

### 森田知佐子

ちー

前半は恥ずかしがって話しかけても逃げていた1班の男の子たちが後半自分から話しかけてくれた。



### 竹田有希

ジェシー

去年あまり話せなかったリュウガ・ショウタが今年は話しかけてきてくれて嬉しかった。



### 瀧川ひかる

ぴかっち

「来年は来ない」と言っていたコハルがコンサート後に「寂しい…来年も来る！」と言ってハグしてくれたことが本当に嬉しかった。日に日に笑顔が増し、心から楽しそうにしている姿を見るとどんな準備も楽しみながら進めることができた。

### 越後利恵

とっちゃん

一緒に食事をしながら、何気ない会話ができたり、名前を呼び合い、関わりが多くて楽しかった。途中で抜けた日に「もっといてほしい」と言われて嬉しかった。



### 寺田百花

こもも

チナミと最初は話せずいたけど日を重ねていくうちに、自ら話しかけてくれたり笑顔に向けてくれるようになって嬉しかった。

### 竹廣三四郎

346

子ども達がクリエイティブを発揮できるような予想もつかないものを作っていたこと、キラキラした顔でたくさんの発見をしてくれて、企画中の苦労はあったが心の成長の音が聞こえてきそうなくらいぐんぐん伸びていて幸せな気持ちになれた。